

令和4年度小平市立小平第四中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

知識・技能、思考・判断・表現ともに全国平均を上回っている。特に知識・技能では、言葉の特徴や使い方に関する事項が7ポイント、また思考・判断・表現では話すこと・聞くことが10ポイント、読むことに関しては7ポイント上回り、概ね良好な結果を示している。

知識・技能では情報の扱い方に関する事項が、また思考・判断・表現では書くことが全国平均を下回っている。また、無解答率は全体的に概ね低く、根気強く学習に取り組む姿勢がうかがえるが、一部の生徒に無解答が偏っており、個別の支援が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

授業の最初に引き続き漢字の学習に取り組み、語句の知識の定着と語彙の拡充を図る。さらに身につけたそれらを活用しながら、12月以降、書くことへの応用を図る。書くことに必要なスキルを身につけさせるために、書く目的に応じて目標と過程を明らかにしながら、ワークシートや授業内容を工夫し、効果的な学習を積み重ねていく。また生徒の相互評価を活用し、お互いに教え合い、高め合う姿勢を育てていく。

【数学】

状況の分析

課題

すべての項目で都や全国平均と比べて、とても高い数値である。また無回答率も低く、回答をしようとする意欲が感じられる。すべての領域において、正答率は10ポイント以上高い。記述式の問題形式でも全国平均より13ポイント高いが、理由を説明する問題の正答率がやや低かった。

理由を説明する問題の回答率が低かった。考えたことをきちんと言葉に表し書くことの練習が足りないと思われる。根拠となることがらを覚え、それを正しく活用する力を伸ばす指導を繰り返すことが必要である。また生徒同士で考えることで、定着を図ることも必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

授業者が問題を取り組ませる中で、証明を考える機会を増やすことが必要である。それは図形の分野に限らず、すべての内容について、なぜそうなるのかを考えさせるようにしたい。また、1、2年で学んだ内容においても、なぜそうなるのかを知識だけでなく考えさせ、他の事柄と関連させていきたい。

【理科】

状況の分析

課題

すべての項目について、東京都ならびに全国の平均正答率を大きく上回っている。特に、記述式の問題で東京都平均を11ポイント上回っている。学習指導要領の領域の中では、「地球」を柱とする領域が他領域よりやや低くなっているが、全体として概ね良好である。

無回答率は、ほとんどの問題で5%以下となっている中、「結果の妥当性を高めるための実験計画」、ならびに「結果の意味を考え探求過程の見通しをもつ」問題でそれぞれ21%、10%とやや高かった。実験の立案、計画、改善を各自で行う習慣を身に着けさせる方策が必要と考える。

学校で取り組む具体的な改善策

各授業での学習課題について、生徒同士での議論の時間をこれまでどおり確保し、互いに教えあうことで、それぞれの理解度を高められるよう授業を工夫する。科学的な事象ひとつひとつについて、疑問点から出発し、なぜこの実験・観察を行うことがその事象の解明につながるのか、また得られた結果から科学的な考察・探求につなげる過程について、生徒に考えさせる時間を十分に確保したい。

【質問紙】

状況の分析

課題

朝食を毎日食べている、就寝・起床時間、約束を守った携帯電話の使い方など、基本的な生活習慣は概ね全国平均に準じている。「家での学習に対する自主的な取り組み」の数値が全国平均を上回っており、学習習慣が定着している生徒が多いことがわかる。また、友達との意見交流や協力することに対して楽しいと感じている割合の数値も高い。

「将来の夢や目標をもっている」や「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」という項目で全国平均より低くなっており、明確な夢や目標をもち、困難なことに直面しても達成に向けて努力し続けようとする意欲をもった生徒が減少している傾向が見られる。「授業における調べ学習や意見交換の場面におけるICT機器の活用」について全国平均を大きく下回っている。

学校で取り組む具体的な改善策

授業、特別活動、学校行事等、学校の教育活動全体を通して、課題の改善に向けて取り組む。普段から活動において目標を設定し、目標に向かって努力することの大切さについて指導していく。また、仲間と協力することを肯定的に捉えている生徒が多いことから、仲間と助け合いながら協力して目標に向かって努力する機会を大切にする。この機会を通して、生徒自身が達成感や充実感を感じ、さらに高い目標に向けて挑戦することができるように指導をしていく。さらに、生徒同士の意見交換や調べ学習において、一人一台配置された端末やデジタル教科書などICT機器を今まで以上に積極的に活用することで、教育活動を円滑に推進していくとともに、さらなる生徒の学習意欲の向上を図っていく。